

## 総合計画の見直しについて

### 1. 計画の見直しを行う必要性、背景

- 現在の総合計画（新・元気とやま創造計画）は、平成22年12月から約1年4ヵ月の総合計画審議会等での審議を経て、平成24年4月に策定し、本計画に基づき県政を着実に推進してきた。その後、平成27年10月に「とやま未来創生戦略」、本年9月には「富山県経済・文化長期ビジョン」を策定した。
- 計画策定から4年半あまりが経過し、その間、混迷する世界経済の重心は欧米中心から多極型へとシフトし、国内においては経済再生、少子高齢化・人口減少対策、東日本大震災からの復興など重要課題への対応が求められるとともに、数年来働きかけてきた「地方創生」を国政の重要テーマの一つにさせていただくなど、富山県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化してきている（詳細は別紙1参照）。
- こうした中、本県においては、県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線が昨年3月に開業し、乗車人員は開業前の3倍近い状況が続くなど、新しい時代を迎えた。
- 富山県の新たな飛躍、発展を目指して、新幹線開業効果と地方創生戦略の二つを追い風として最大限に活かしながら、「とやま新時代」にふさわしい県づくりの取組みを県民に対して具体的に提示していくことが求められている。
- 国内外の様々な状況変化や県政の重要課題に的確に対応するため、県議会をはじめ、もとより、市町村、経済界をはじめ幅広い県民の知恵とパワーを結集し、現総合計画「新・元気とやま創造計画」の見直しに取り組むこととし、県政運営の新たな中長期的指針を策定するものとする。

### 2. 新たな計画について

#### (1) 目標年次

平成38年度を目標年次とし、概ね10年間程度を見通した計画とする。

#### (2) 計画の体系

- 政策集に掲げた100の政策を踏まえながら、現行計画と同様、「活力」、「未来」「安心」の3つを基本政策とし、これらを支える「人づくり」を重要政策として体系化する。
- 県民にとって緊要度が高く、最優先に取り組むべき重点的、分野横断的な戦略を策定する。
- アクションプラン（計画推進のための具体的事項や活動指標を記載）を毎年度作成する。

### 3. 計画策定の進め方

#### (1) 総合計画審議会等での検討（予定）（詳細は別紙2参照）

##### 【平成28年度】

平成28年12月8日 総合計画審議会（第1回）へ計画策定の諮問  
平成29年1月～2月 部会（総合・活力・未来・安心）  
青年委員会で審議開始

##### 【平成29年度】

平成29年春頃 骨子案を総合計画審議会（第2回）、部会（総合・活力・未来・安心）、青年委員会、地域委員会（3地域）で議論  
平成29年秋頃 答申素案を部会（総合・活力・未来・安心）、青年委員会、地域委員会（3地域）で議論  
年内 総合計画審議会（第3回）において最終答申  
※ 答申内容を平成30年度予算案に可能な限り反映  
平成29年度末目途 新計画、アクションプランの決定

#### (2) オープンでわかりやすい県民参加の計画づくり

以下の広報公聴活動を行い、幅広く県民の意見を聞き、新たな計画に反映。

- 県民意識調査  
対象：一般県民及び県政モニター 2,000名  
内容：総合計画の各政策等の意識・選好度・意見調査
- 有識者アンケート  
対象：県審議会・協議会委員等 800名  
内容：未来の富山に関する認識、分野別課題や施策の方向性等
- 若者アンケート  
対象：県内出身者、県外出身者（学生、企業就職者）等 3,000名  
内容：就職、進学、移住、結婚、未来のとやまに関する認識等
- 市町村長アンケート  
対象：県内15市町村長  
内容：総合計画の見直しにかかる提案、意見等
- 県議会議員等との意見交換
- タウンミーティング
- パブリックコメント（骨子案、答申素案）
- 県広報やホームページなどによる計画の策定状況の公表

## ◎計画策定後の（2012年4月以降）主な動き

## ＜世界＞

- ・世界的な需要の低迷、成長の減速、海外経済の不確実性の高まり
- ・欧米中心から多極化へパワーバランスがシフト
- ・第4次産業革命による新たなイノベーションの発現
- ・包括的経済連携の動き（一方で保護主義的な流れ）、米国政権交代
- ・パリ協定批准による地球温暖化への新たな対応 等

## ＜国内＞

- ・名目 GDP600兆円経済（2020年頃）の実現に向けた取組み
- ・人口減少社会への突入（2015国勢調査）、地方創生、一億総活躍社会の推進
- ・地方創生（2014.12「まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）」策定）
- ・第4次産業革命を通じた経済社会構造の変革
- ・東日本大震災、熊本地震を踏まえた強靱な国土づくり、インフラ老朽化の対応
- ・訪日外国人の増加、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催決定 等

## ＜県内＞

- ・北陸新幹線の開業（開業前3倍の乗車人員、観光客の増加、企業立地）
- ・大阪までの早期延伸・開業に向けた働きかけ、新ゴールデンルートの形成
- ・陸・海・空の交通基盤の整備（並行在来線の経営安定、東海北陸自動車道の付加車線化決定、伏木富山港の機能強化、富山きときと空港の羽田便4便維持など）
- ・地方創生戦略による人口減少対策の進展（自然減の歯止め、社会増への転換）
- ・富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」加盟、G7富山環境大臣会合の開催
- ・約400億円の財政構造赤字ゼロ、長期借入金残高が約半世紀ぶりに減少 等



「とやま新時代」に対応した総合計画の見直し

新総合計画策定のスケジュール（案）

別紙2

年度	月	審議会・部会等	幅広い意見の反映等
H 28 年 度	9		アンケート等の実施 ①総合計画のための県民意識調査 ②有識者アンケート ③市町村長アンケート ④若者アンケート
	10	10/25 記者会見(知事表明)	
	11		
	12	12/8 第1回総合計画審議会(諮問)	
H 29 年 度	1	活力、未来、安心部会① 青年委員会① 総合部会①	市町村長との意見交換(全体) (第2回市町村長会議(1/12)に併せて実施)
	2		論点の整理
	3		
	4	○骨子案の検討	
H 29 年 度	5	活力、未来、安心部会② 青年委員会② 総合部会②	骨子案の議論
	6	第2回総合計画審議会(骨子案の審議)	
	7	地域委員会①(3ブロック)	タウンミーティング(新川、富山、県西部) 骨子案に対するパブリックコメント(1か月間)
	8		県議会議員との意見交換会
H 29 年 度	9	○答申素案の検討	
	10	活力、未来、安心部会③ 青年委員会③ 地域委員会②(3ブロック) 総合部会③	答申素案の議論
	11		答申素案に対するパブリックコメント(1か月間)
	12	第3回総合計画審議会(答申案の審議) 答申手交	
H 30 年 度	1		○答申の内容を踏まえ平成30年度予算に反映 ○アクションプランの作成、取りまとめ
	2		
	3	総合計画策定、アクションプラン策定	
H 30 年 度	4		○計画冊子、概要版の作成 ○広報の実施